

令和5年度 兵庫県立明石西高等学校 学校評価・実践目標

教員による自己評価（4段階） 4よくできた 3できた 2あまりできなかった 1できなかった

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	R4期末評価平均	R5期末評価平均	令和5年度の達成状況と次年度に向けての方策
学校教育目標	(1) 「自律・協同・誠実」の校訓のもと、夢と希望にあふれた地域に信頼される「生き生きとした魅力ある学校」づくりを推進する。 (2) 基礎・基本の充実を通して「確かな学力」を獲得し、「チャレンジ精神」を持って自己実現・進路実現を図る自立する生徒を育成する。 (3) 「豊かな心」を育み「生きる力」を培う中で、人間尊重の精神を基盤とした知・徳・体の調和のとれた国際社会に飛躍する人材を育成する。		(1) 生きる力の育成と自主性・自律性の伸長 (2) 適切な教育指導、教育内容に基づく個性の伸長と進路目標の達成 (3) 地域に信頼される、地域に開かれた学校づくりの推進 (4) 国際化時代に活躍する人材の育成を目指した教育の推進 (5) 社会の変化に対応した学校の力量の充実と教職員の資質の向上 (6) 「学校いじめ防止基本方針」の見直し及びいじめ防止等に向けた指導のさらなる充実 (7) 教職員の勤務時間の適正化のさらなる推進 (8) 特別支援教育の推進	期末評価の総括 ①授業や生徒指導、進路選択準備、防災教育等優先すべき活動において、職員も知識をアップデートしながら、安心と信頼を覚える対応を行うことができています。 ②生徒の特性、内面理解に努める重要性を年間を通して意識してきた。今後も家庭との連絡を大切にしながら、特別な配慮が必要な生徒の対応は、専門家の力も借りチームで対応していきたい。 ③すべての生徒が授業や行事等で活躍できる場面を設定し、自己有用感を感じられるよう、専門部と各学年がコミュニケーションをよく取って協力していきたい。		
	1 開かれた学校づくり	①家庭・地域への情報発信 ②学校評議員制度の学校運営・改善への活用	学校説明会や本校を紹介する広報誌の内容の充実を図る。 ホームページを通じて、学校行事等の情報を可能な限り広報するとともに、定期的にその内容を更新する。 学校評議員との意見交換の場を設け、学校運営等の改善に役立てる。	2.8 2.9	3.1 3.1	・今年度も3回学校説明会を行い、教員だけでなく生徒にも学校紹介をしてもらった。総務部と連携し、明石まるわかりブックを改訂した。次年度はより本校の活動を知ってもらえる内容に改善したい。 ・他校より早い時期に説明会を行い、各中学校に案内を配布した結果、昨年度より多くの中学生と保護者が参加した。9月の説明会も参加者を増やすため7月中旬よりWebで募集開始をした。 ・4月に教育類型・国際人間科の宣伝ポスターを中学校に送付。6月に学校説明会の宣伝ポスターを中学校に配布。5月に教育類型・国際人間科説明会、9月に学校説明会、11月にオープンハイスクールを実施し、広報活動を行った。 ・文化祭などの学校行事、部活動、教育類型や国際人間科の授業やイベントの様子などをホームページで随時更新している。さらに内容の充実を図りたい。 ・8月と3月(予定)に学校評議員会を設け、意見交換を行った。その結果を学校運営の改善に反映させた。
I 学校運営	2 生徒指導	①生徒指導方針の明確化とその評価による指導体制の推進 ②生徒の内面理解を図る指導方法の工夫 ③生徒の自主・自律の精神を育む指導の工夫	生徒指導方針を職員、生徒に示し、定期的にその方針の達成状況を確認しながら、生徒指導を推進する。 いじめに関するアンケートを学期ごとに実施するなど、生徒の抱える悩み等を把握する。 部活動や生徒会活動、学校行事などの活性化を図り、生徒の主体的な活動を支援するとともに、自主性・自己有用感を高める。	2.6 3.1	3.0 3.3	規程の見直しを今年度も検討した。携帯電話・タブレットの校内使用や服装などの規程の見直しについて引き続き、検討していく。 アンケート後の生徒との面談等に時間がとれるように、行う時期を昨年度より1か月早めて実施した。保護者アンケートの内容について見直した。
	3 進路指導	①進路指導体制の充実 ②主体的な進路選択能力の育成	生徒のさまざまな進路目標に対応する進路指導計画を策定すると共に、高校生キャリアノートを活用した「進路の手引き」等を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施する。 生徒自らが将来の進路を選択し計画する能力を育成する。さらに、それぞれにふさわしい自己実現をめざしたキャリア教育の充実を目指す。	2.7 2.9	2.7 2.9	明西祭を昨年度に引き続き保護者の参加人数に制限をかけて2日間開催した。模擬店の販売方法など新たな取り組みを検討している。生徒会が規程の見直しについて全生徒にアンケート実施し、意見書を作成した。 LHRや集会での進路指導において「進路の手引き」を利用したり、模試等のフィードバックを利用するなど、各学年に応じて、進路選択、進路実現への検討、入試理解等の指導を行った。
	4 教職員の資質向上	①実践的指導力の向上 ②計画性を持った研修の実施	公開授業や研究授業を充実させ、指導法や授業形態の工夫を図る。 各部・各委員会の協働により、学校の諸課題に関する校内研修を計画的に立案する。	2.8 2.3	3.0 2.5	・本年度も5月から6月にかけて、校内授業を相互参観。10月から11月にかけて保護者にも公開し実施した。年々保護者の方の参観が増加している。感想には生徒の様子を見ることができて良かったというものが多かった。今後、さらに主体的・対話的な授業への工夫を進めていきたい。 8月にカウンセリングマインド研修会を実施した。NPO法人ゲートキーパー支援センター竹内志津香氏に依頼し「先生のためのゲートキーパー講座」と題し、ロールプレイも交えつつ講演していただき、深刻な不安や悩みを抱える生徒への適切な対応について研修を深めた。 10月に学習評価についての職員研修会を行った。主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、理解を深め日頃の教育実践を振り返る機会となった。
	5 危機管理体制の整備	①実践的な研修・訓練の実施	危機管理マニュアルの点検及び改善を行う。	2.4	2.9	・危機管理マニュアルで不備のある部分の改善を図った。 ・次年度はこの危機管理マニュアルを職員・生徒へ更に周知させる方法を検討している。
	6 研究活動、指定事業の推進	①新学習指導要領実施に向けた授業改善等の取組	指導目標を明確にし、探究活動を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。	3.0	3.0	生徒による授業アンケートを2回実施し、来年度に向けて各教科の「明西グランドデザイン(カリキュラム・マネジメント)」の見直しを進めている。
	7 業務改善の推進	①業務改善を全職員で実施	職員のワークライフバランスを改善すると共に、業務量や業務分担の見直し、スクラップ&ビルド、報告・連絡・相談等の情報共有、会議のペーパーレス化等の業務改善により、生徒と向き合う時間を確保する。	2.3	2.6	・職員会議のペーパーレス化を今年度も実施した。 ・Teamsによる職員連絡を実施し情報共有の効率化を図った。 ・超過勤務対象職員には学校産業医による面接相談を実施した。

II 教育課程	1 自ら学び考える力の育成	①体験的・問題解決的な学習の展開	ふれあい育児体験やミニ・ティーチャー等の体験的な学習や、問題解決的な学習を推進する。	2.7	3.1	教育類型の2年生と1年生を対象に赤ちゃん先生を実施。教育類型の2年生はディベート、ピリオバトル、小学校ミニティーチャー体験を実施した。
		②生涯教育の視点に立った実践能力の育成	学校設定科目を含め多様な選択科目を設定し、特色ある教育課程を編成するとともに、精査と見直しを行う。	2.8	2.9	令和4年度入学生からの新カリキュラムを作成。今後、さらに本校の特色を出しつつ、教育課程の精査と見直しを進めて編成を行う。
	2 基礎・基本の定着	①生徒の学力の把握と評価規準の設定	各教科で評価規準を設定し、それに基づいた評価を行う。	3.1	3.2	評価規準は教育課程委員会や各教科会を通じて議論され、各教科において場面や方法を工夫しつつ適切に評価が行われた。全学年が新カリキュラムになるに伴いシラバスのフォーマットを改め、生徒等がより活用しやすいシラバスを目指した。
		②学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	より計画的な指導を推進するために、シラバスや年間指導計画の整備を行う。	3.0	3.2	
	3 総合的な学習(探究)の時間	①教職員の協働体制の確立	推進委員会を定期的に開催し、3年間を見据えた計画を立てるとともに、生徒のニーズに合った学習テーマを設定し、全教員が取り組む。	2.5	2.8	47回生がグループでの課題研究を行い、発表に取り組んだ。43回生以降、上級生が下級生に発表を見せる形での継承ができてきた。また評価について、文章評価の見直しを行った。来年度以降も今年度の取り組みを参考にさらに深化させたい。
		②創意工夫を生かした実践の展開	表現活動の場を設定するとともに、各教科の学習活動や特別活動との連携を図る。	2.6	3.0	
II 教育課程	4 個に応じた学習指導の徹底	①評価方法の創意工夫	学習指導の過程における評価を行い、評価活動を授業の改善に生かすことにより、指導と評価の一体化を図る。	2.9	3.1	「指導と評価の一体化」については、生徒のアンケートを今年度2回実施し「明西グランドデザイン(カリキュラムマネジメント)」の目標と照合している。各教科において、授業内でICTを活用し生徒の思考力や表現力等を深める工夫がされた。来年度以降もさらに授業改善を進めていく。
		②指導形態の工夫	習熟度別授業や少人数指導の深化を図るとともに、チームティーチングや、ICTを活用し思考力・判断力・表現力を高める等授業改善を図る。個別学習や協働学習等、指導を工夫する。	2.9	3.1	
	5 学校の個性化・多様化	①学科の特色をそれぞれ踏まえた教育の推進	(普通科)基礎的・基本的事項の完全定着に努め、学習に対する取組を組織的・計画的に支援する。	3.0	3.1	公開授業を通じて、一定程度の授業改善を行ってきた。今後より積極的に授業を公開し、職員相互に研究を深め、効果的な指導方法の工夫・改善を図る。授業評価等の取り組みを図る。
			(普通科・教育類型)体験学習や課題研究等により、教育や社会への洞察を深める。	2.7	3.1	コロナで中止になっていたこども園のミニティーチャー体験を再開することができた。また、新たに2年生が二見西幼稚園に訪問することもできた。教育類型での活動を通して、リーダー性の育成やコミュニケーション能力の向上を図ることができていると考える。
			(国際人間科)特色ある専門科目や多彩な行事を通じて、グローバルな視点で考え行動できる人材の育成を目指す。	2.5	3.3	地球市民特別講義年3回を実施し、インドネシア、アブダビからはオンラインで、第3回は講師を招き学校で南アフリカについて講義をしていただいた。また、「イギリス研修旅行「オーストラリア・マレーシア語学研修」を現地で行った。神戸大、JICA、神戸外大、県立大の現地訪問をしてコロナ前と同様に現地で多くのことを学ぶことができた。
	6 カリキュラム・マネジメント	①カリキュラム・マネジメント研究の推進	本校の強みを更に生かした教育活動を展開するため、教科横断的な観点からの教育課程の編成を目指す。	2.4	2.8	各教科内で身につけさせたい資質・能力をどのような学習活動を通じて、達成できるか、昨年度より取り組んできた成果を明らかにし、まだ達成できていない目標や新たにとりくむべき課題を整理することが課題である。 教科学習以外の地域や生徒会、学校行事についても考える。
III 課題教育	1 防災・安全教育、健康教育	①教員の防災・安全教育にかかる指導力・実践力の向上	学校安全計画の見直しを行うとともに、防災訓練や救急救命講習会が実のあるものとなるよう、教職員の意識を高め、生徒の安全意識を高める。	2.8	3.0	各教室に配置している避難経路図の確認、非常階段等の点検、非常時の行動について避難訓練にて生徒への周知を行った。 兵庫県のシェイクアウト訓練と連動したシェイクアウト訓練も行った。 更なる防災意識の向上を図りたい。
		②生涯にわたる健康の基礎を培う指導の工夫	「保健だより」を発行するなど保健室の機能を生かし、適切な健康管理・保健指導を行う。また、インフルエンザ・コロナウィルス等の感染症について、感染防止に必要な知識の理解や態度の育成を図る。	3.3	3.2	教職員はAEDデモ機を用いた心肺蘇生法講習会を実施し、緊急時における救急救命技術の向上を図った。1年生については保健体育の授業の中で、2年生以上については運動部の生徒を中心に心肺蘇生法講習会を実施した。熱中症予防のため各部活動に携帯型熱中症指数モニターを配布し、また熱中症患者が発生した際の救急体制を見直した。 毎月「保健だより」を発行し、健康についての知識を理解できるように努めた。保健室入室時に個別に保健指導を行っている。感染防止対策や生活習慣の改善向上について、教室掲示や日々の呼びかけを行い、注意喚起を促した。
	2 人権教育	①人権教育推進体制への取組	3年間を見通した人権HR・人権福祉講演会等の充実を図り、計画的に実施する。感染症罹患者への差別・偏見を防止する。	2.8	3.1	各学年の人権ホームルームを中心に人権意識を高める方策を考えた。 人権講演会を実施し、差別問題について深く考えさせた。 次年度はいじめや平和問題等、命の大切さについて考えていきたい。
	3 情報教育	①情報モラルの育成	「サイバー講演会」や教科「情報」の授業等を通じて、スマートフォンやネットに潜む危険性を生徒に理解させる。	3.0	3.2	4月よりSNSによるトラブルが複数件あったので、集会や行事の時間を使って、注意喚起した。サイバー講演会を生徒、保護者、職員対象に専門家の講演会を3回実施した。講演会では生徒からの質問も活発に出る等関心が高かったと思われる。
	4 国際理解教育	①他国の歴史や文化の理解	海外修学旅行や研修旅行の事前事後学習で、訪問国の歴史・文化・生活習慣等について理解を深めさせる。	2.7	3.2	国際人間科2年生は、「イギリス研修」の歴史・文化に関する事前研修として、シェークスピアの作品、ミュージカルの「オペラ座の怪人」などをBook Reviewで読んだ。(来年度も同様の学習を行う。) イギリスの訪問場所のリサーチを行った。
		②交流事業の推進	姉妹校との相互訪問等を通じて、生徒同士の交流を深めると共に、ZoomやWebexの活用等のICTを生かした交流を深め、異文化理解の深化を図る。地域や大学、企業等と連携し、幅広く国際的な視野を広げる活動を推進する。	2.5	3.1	国際人間科2年が兵庫県立大学の国際商経学部GBC「プロジェクトセミナー」の授業と連携し、出店運営とSDGsについて発表した。
5 特別支援教育	①校内支援体制の充実	職員の研修を深め、特別支援教育コーディネーターを中心に全教職員で、支援が必要な生徒へのきめ細かく適切な教育的支援を行う。	2.9	3.2	障害のある生徒や外国につながる生徒などさまざまな背景のある生徒を具体的に支援することができた。来年度も引き続きニーズをすくいあげて支援をおこなってきたい。	
平均				2.8	3.0	